

私達を取り巻く環境は日々変化しています。最近の環境問題や、環境に関する事柄について「知ってほしい・知らせたい」情報などをこのコーナーで伝えていきます。今回は、「プラスチック資源循環促進法」成立と「マスクごみ」の問題です。

### ◆ 「プラスチック資源循環促進法」成立

昨年 7 月、レジ袋が有料化された。その折「レジ袋だけ有料化しても意味がない」「レジ袋だけ削減してもしょうがない」などの声が多く聞かれ、レジ袋の有料化をきっかけにプラごみについての関心が高まり、プラごみの削減に繋がることが期待されるといった声はあまり聞かれなかった。実際朝日新聞社が当時行ったアンケートでも、約 55%の人が意味がないと回答していた。

それから間もなく 1 年。つい先日(6 月 4 日)プラスチック資源循環促進法が成立した。これにより、無料で配っているプラスチック製の使い捨てスプーンやフォークなどの有料化や、代替素材への切り替えが義務付けることとなったが、これらはほんの一例に過ぎない。

プラスチック製品の削減やリサイクルの促進にむけ、来春にも施行される見通しだ。しかし自治体における分別の強化や、メーカーには設計や製造の段階から削減を求めるなど、細部についてはまだまだ決まっていない部分もあり課題もある。私たちの暮らしと直結する事柄だけに注視していきたいものである。

### ◆ 膨大な量の「マスクごみ」が海へ その数なんと 15 億枚

新型コロナウイルス感染対策としてマスクは欠かせない。そのマスクだが、飛沫防止効果が高いということで、多くの人が不織布マスクを着用している。この不織布マスク、実はその多くは、ポリプロピレンやポリウレタン、ポリエステルなどのプラスチックでできていることは意外に知られていないのではないだろうか。このような化学繊維は自然界で分解されにくく、分解されるには 450 年ほどかかるともいわれている。

このほど、海に流れ出たマスクごみは「1 年間に 15 億枚」になると環境団体が試算したと報道された。このような膨大な量の「マスクごみ」は当然自然界にも大きな影響を与えるであろうことは明白だ。実際世界各地から、「マスクの耳ひもが爪に絡まったハヤブサ発見」「ペンギンの胃からマスクが見つかる」などの事例も報告されている。さらにこれらのマスクはいずれマイクロプラスチックとなって更なる問題を引き起こす原因となるのである。

たかがマスク 1 枚と侮るなかれ、きちんとルールに従った廃棄をお願いしたい。